



# のっぽの手

通常総会が終了し、今年度の活動が実質的にスタートしました。今回は総会を終えての牧田理事長の所感を紹介します。

また、これから年末にかけて各団体の活動も活発化していきますが、連携強化を図っていくうえでの大切な視点とは何か、齋藤大介常務理事に話を聞きました。あわせてご覧ください。

## ◆◆◆ Contents ◆◆◆

- ◇牧田理事長より | 2
- ◇齋藤常務理事より | 2
- ◇助成金活動団体の報告 | 3
- ◇おしらせ・トピックス | 4-7
- ◇新コーナー「朋あり」 | 8

## TOPICS

ふくしま地域活動団体サポートセンター

URL <https://f-saposen.jp/>

NPO と企業・学生との連携協力事業

### NPO と企業のマッチングイベント開催

当センターでは、多様化する地域課題解決のため、NPO と企業等の異なる組織が互いの強みを活かし、新しい視点で連携・協力する取り組みを応援しています。

8月22日(木)「ゆめの町ココママ」(主催:NPO法人ココネット・ママ)と、キャノンマーケティングジャパン株式会社が2012年から実施している東日本大震災被災3県に向けた東北復興・創生推進活動「みんなの笑顔プロジェクト」との連携協力事業が実現しました。



## 2024 年度通常総会と 夏のあっちこっち

2024 年度総会は、7 月 27 日、無事開催された。各部署の事業報告および次年度の事業方針・計画については、各部署の所長が責任をもって担当するスタイルが定着したのは喜ばしい。当センターとしては、2021 年度以降、赤字が続いている中で、いかに行政依存の体質を改善できるかが課題であり、そのためには、外部助成金の獲得に加え、企画力の向上と自主事業の展開が不可欠であることを確認した総会であった。

総会に先立って、「のっぽ基金助成金・ふくしま元気市民活動助成金報告会」が開かれた。当センターが助成金を提供した計 5 団体(子どもカフェたまご、チームふくしま、表郷戦争回顧展実行委員会、N っ子ちゃん、プチマン)の成果報告である。中間支援組織に身を置いていると、ともすると現場に疎くなってしまいが



2024 年度通常総会の様子

認定 NPO 法人  
ふくしまNPOネットワークセンター

理事長 牧田 実

ちなのだが、この報告会は、NPO と社会の交差する最前線の状況を知るとともに、中間支援(ここでは助成金だが)がいささかなりとも社会に貢献しているとの実感をもつことのできる機会になっている。

総会に先立つ 7 月 21 日には、チャレンジインターシップの開講式が郡山で開かれた。福島県が主催し、コカ・コーラボトラーズジャパンが共催するこのインターシップ事業は、高校生・大学生が NPO で就業体験をするというユニークなものだ。この事務局をふくしま地域活動団体サポートセンターが務めている。ここに集う若い世代のピュアな熱意は、未来への希望だと素直に思う。会場での挨拶でも述べたが、自分自身が活動を楽しむこと、NPO の現場を体感すること、社会への視点をもつこと、この 3 つを若い世代に望みたい。

8 月某日、ガイナの浅野芳宣社長にインタビューした。ガイナは伊達市が出資したご当地アニメ「正宗ダテニクル」(2016~配信)の制作会社であり、浅野さんはこの作品の企画・総監督を務めている。アニメ制作にあたっての市の注文は、①伊達氏が代々領主を務めた伊達市の歴史の宣伝、②名所めぐり観光の開発、③第 17 代当主伊達政宗人気への便乗。はたしてこれらを満たす答えとは? アニメによる地域づくりの裏側に迫るこのインタビューは、ふくしま市民活動フェスティバル 2024(11 月 3 日、於アオウゼ)で上映の予定。お見逃しなく。

## 連携強化の目指すところ

常務理事 齋藤 大介

人はこちらから思った以上に話し過ぎだ。「他人の話しを聴くこと」これが本当に難しい。「聞く」ではなく「聴く」ことの難しさだ。最近、営業のスキルとして「質問力」「雑談力」という言葉が聞かれるようになったが、これらはカウンセリングマインドに通じていて、他人とコミュニケーションをとる上で必要な能力の一つである。相手との距離を縮めていくことは、相手を知ることである。相手を知るためには、私は多くの話しを相手から聞きたい。「私」を伝えるより先に、まずは相手を知ることが大事なのだ。ここで、少しカウンセリングマインドについて触れておくと、カウンセリング(心理学)の基本として「受容」「共感」「傾聴」とよく言われる。「受容」とは自分の価値観で批判したり評価をしたりせず、そのまま、ありのまま受け止めること、「共感」とは相手の立場になって相手の気持ち・言葉を理解するようにきくこと(同感や同情とは違う)、そして「傾聴」とは、受容や共感をし

ながら、相手を否定せず、じっくり相手の話しに耳を傾けることだ。この「受容」「共感」「傾聴」の姿勢を大事にししながら、相手が自ら心の扉を開いて話してくれる信頼関係を育んでいくことがカウンセリングの第一歩と言われる。

なぜ、私がこのカウンセリングマインドの話題を出したかと言うと、連携強化の目指すところ、それは、その団体内(職場内)でも、他団体・他機関・他企業同士でも、連携を図ることで、効率性を高め、市場での競争力を高めていくことであり、そこで、私が重要と思っていることは「相手との信頼関係」だからだ。他人と他人が関わっていくこの社会において、カウンセリングマインドを心の隅にでも置いている人が少しでも増えれば、職場は今よりも少しだけ働きやすくなるかもしれないし、団体同士のつながりも人間関係ももう少し円滑になるかもしれないと私は考えている。

## 2022年度

### 「ふくしま元気市民活動助成金」活動報告

#### ■表郷戦争回顧展実行委員会

事業名: 展示設置にかかわる備品整備及び資料補修事業

第16回表郷戦争回顧展(戦争の資料展示と戦争講話)を開催。家族の中で戦争体験者(高齢者)が少なく なっている中で、身近な方々が戦争で亡くなられていることを知ったり考える機会として開催した。

- ・開催 令和5年 6/2~6/4
- ・場所 表郷公民館
- ・来場者数 約 250 名
- ・助成金にて、展示ボード類の購入/掛け軸の修復等を実施し、設置の負担軽減に役立てた。



(右)表装修復された「教育勅語」の掛軸

#### ■Nっ子ちゃん

事業名: 小さく生まれたお子さん(低出生体重児)とご家族の交流会開催事業

早産などで小さく生まれた子どもを持つご家族が孤立することなく、つながり合える仲間づくりの場を提供した。

- ・家族のおしゃべり会/オンライン交流会
- ・こども家庭庁設立準備室との懇談
- ・小さく生まれた子どもの写真展
- ・フォトブック等々の制作



(右)制作されたフォトブック

#### ■NPO 法人子育て支援コミュニティプチャマン

事業名: 0歳時の発育に応じた運動遊び事業

0歳児を対象に、発達に応じた運動方法を伝え、家庭での運動遊びの増加を目指し開催した。保護者同士のコミュニティづくり、家庭での食事・発育、発達相談なども行うことにより、子育て困りごとの負担軽減につながった。

(下)親子運動あそび「プチャマン りんごクラス」



## 2022年度

### 「のっぽ基金助成金」活動報告

#### ●地域のコミュニティ“場所づくり”

“巣づくり” 子どもカフェたまご

事業名: もうひとつの家

困難を抱えるご家庭の利用対象者が、いつでも利用し易い状況を整備し、子ども親も両方が「もう一つの居場所」と思ってもらえる場所づくりを展開。また、孤立を深めている人との繋がり、情報提供、交流を通じて、安心を生み出す寄り添い活動を展開した。

- ・子どもカフェお弁当配布(定期実施)
- ・高齢者とのふれあいづくり
- ・子どもイベントの開催
- ・シングル支援、フードパントリー、夜間託児所への物資共有等

(下)子どもカフェでのイベントの様子



#### ●特定非営利活動法人チームふくしま

事業名: 「お互いさまの街ふくしま」を創造する

“お互い様の気持ちで満ち溢れる街ふくしま”を実現させるため、「お互いさまチケット」「みんなの倉庫」「お互いさまアート」等の恩送りのしくみを展開。県北エリアを中心に「お互いさまチケット」の店舗拡大と事業認知広報を行った。

- ・広告宣伝活動(紹介映像作成)
- ・チラシ/マップ等の印刷
- ・顧客 DM 発送
- ・アンバサダー認定プレート等の制作

(下) 利用者へ向けたメッセージとともに、お互いさまチケットを店内に掲示



「お互いさまの街ふくしま」HPはこちらから  
↓



## 2024 のっぽ基金助成金

【助成分野】 NPO 法に掲げる活動分野

【対象地域】 福島県県北地域活動団体

【助成条件】 定款または規約等を有し、団体として  
独立した経理を行っていること

<お問い合わせ>

ふくしま NPO ネットワークセンターの  
ホームページからご確認ください。

URL <https://f-npo.jp/>

### 助成金額

上限 **100万円**

### 応募期間

2024年**9月9日**(月)  
～**10月23日**(水)

### 対象事業予定数

応募事業の中から**1事業**

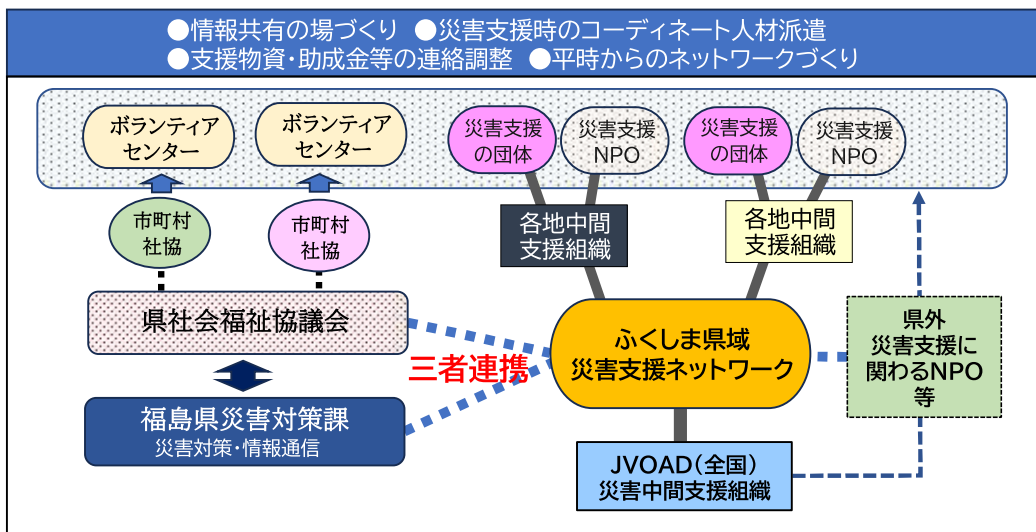
### 募集から報告までのスケジュール

9月9日(月)	助成金対象募集開始
10月3日(木)19:00～	助成金募集説明会開催 (場所 福島市市民活動サポートセンター)
10月23日(水)	助成金対象募集〆切
11月中旬	選考会 助成事業決定 結果の通知
11月下旬	助成金の申請受付開始 概算払い
2025年12月末	助成事業の終了
2026年2月28日	実績報告書の提出 助成金の確定・精算

## 民間の災害中間支援組織について

災害が発生した際に行政や各市町村の社会福祉協議会(以下、社協)と連携し、ボランティア団体の受け入れ窓口や情報共有の場づくりなど、各団体のコーディネートを行う災害中間支援組織として「一般社団法人ふくしま県域災害支援ネットワーク」が今年6月に設立されました。全国各地で地震や水害などの自然災害が相次ぐ中、行政や社協はもとより、関係団体や企業などとも連携を強め迅速な対応につなげることを目的としています。

災害の発生頻度が年々高まる中、先の教訓や全国の例も参考にしながら、実効性ある体制を早急に整備する必要があり、今後も継続的に働きかけていきます。



※ふくしま NPO ネットワークセンターも幹事団体として、ふくしま県域災害支援ネットワークに参加しています。

## 事業所トピックス

未来志向で考えるということはそう簡単なことではない。戸惑いもあれば踏み出す勇気もある。それを「自分ごと」にすることで前に進めようとしている職員たちがいる。今回も当ネットワークセンターが受託している二つの事業責任者に話を聞いた。  
(聞き手:佐藤正雄)

### ふるさとふくしま交流・相談支援事業 事務局

URL <https://www.ff-shien.jp/>

所長 渡邊 久美子

福島県からの委託を受け、事務局として9年目を迎えた。「県内避難者・被災者心の復興事業補助金」と「県外避難者帰還・生活再建支援補助金(一部)」という二つの補助金の事務局業務を担っている。

——事務局として意識していること、感じていることは？

「NPO 等民間団体」と「行政」との橋渡しができる事務局運営を念頭においています。補助金事業に係る実施団体へ向けた事務サポートや事業実施への助言を行う一方で、実施団体が目指すミッションやビジョン、日頃の活動内容やこれまでの背景などを理解しておくことが肝要だと感じています。

——各団体の助成金事業内容の傾向としては？

補助金の趣旨に即した事業内容となることはもちろんのこと、避難者・被災者が主体的に参加できるような健康づくりのための教室、農作業や物づくり、音楽やスポーツを通じた活動、世代間交流や地域の関係人口とも繋がりが持てる事業など内容は様々です。参加される方々が、これらの交流により生きがいを持てるよう多様な事業内容となっています。

——事務局業務で苦勞しているところは？

特に苦勞はありませんが、組織風土が異なる「行政とNPO 等民間団体」とが、相互理解を円滑に行うためには何が必要なのか、職員一人ひとりの自主性・協調性・再現性を重視した事務業務が行なえるよう努めています。

——今後に向けては？

震災から年月が経過した現在でも、NPO 等民間団体が実施する事業活動は継続が求められています。この補助金によって、震災発生当時から続く実施団体と支援対象者との信頼関係が継続されること、またより多くの団体にも活用いただき、必要とされる支援事業が必要とされる方々へ届くことを期待しています。



### まちなか交流施設 ふくふる

URL <https://fukufuru-machinaka.jp/>

常務理事 深澤 秀樹

福島市本町、駅前通りとパセオ通りの「かど」にある公共交流施設「ふくふる」。様々な世代の人々が集う「くつろぎ・憩い」の場となっている。同時に、もっと福島を学び、知り、楽しむための情報の発信・収集の場として利用されている。

——「まちをもっとおもしろく」と常々話されているが？

人は多様であり、多様だからこそ良い、多様だから進化する、多様だから生き抜いてきたのである。そこには人の数だけアイデアがあり、単なる多数決で片付けられないプラスαの世界がある。それこそ「共創」だと思う。だから日常茶飯事的にプラスαが生まれていたら、それはとても楽しいだろう。そんな情報発信の場所に「ここ:ふくふる」がなってくれたらとても「ワクワク」する。「まち=わくわく」のきっかけを生み出したい。

——おもしろい議論をもっと加速させるためには？

人が集まれば様々な声が集まり議論も起こる。これを

うまく回していくコツがある。いつも言っていることではあるが、人は感情で動くということ忘れてはならない。私の経験からいっても、組織はピラミッドと言うが組織や団体の上の役職や役割に立つ人ほど責任感が強く、だからこそ自分の役割を遂行しようとし過ぎる。結果、正論を部下や周りに押し付ける。正論の強制は行動を委縮させるだけ。「必要」を「やりたい」に、「伝える」を「伝える」に変えて考える。それが「共感」である。そうした「共感」を生む言葉がおもしろい発想や活動を引き出すのではないかな。

——福島の「まち」は少しずつ動き出してきた感がある。今後に向けては？

駅前通りやまちなか広場を中心に、毎週のようにイベント等が開催され、皆が活気あふれる「ふくしま」をつくろうと活躍している。素晴らしいことだと思う。そのうえで、特に若い世代の方々には、是非、起業家精神を学んでほしい。自ら起業せずとも、その精神を学び、自分でチャレンジし、自分で決める、そんな人たちに触れてもらえたらうれしい。いつでも「ここ:ふくふる」でアドバイスできると思う。

## 「のっぽの手」は、企業・団体の広告掲載を開始します

認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター(以下、当センター)は、NPO 法人・ボランティア市民活動等の各団体の自立的運営を支援し、行政や地域と連携した新しい協働関係を築くことで市民社会の発展に寄与することを目的に取り組んでいます。この情報紙「のっぽの手」は、ご支援いただく皆様に私たちの活動を知っていただくため、その活動報告の手段として発行しております。

社会の成熟化・多様化等、取り巻く環境が大きく変化する中で、複雑化した住民ニーズへの対応や地域社会の課題を解決していくためには、これまでとは違う新しい協働スタイルも必要になってきており、「NPO・各団体」と「企業」との新たな事業連携がそのきっかけになればと考えています。

このため特に、各団体や企業をよく知っていただき、同時に、さらなるサービス向上や経済的運営の活性化も推進していくために、当センター発行の広報紙を活用した広告活動に紙面を提供できると致しました。

### お申込み方法

のっぽの手広告掲載については、以下にメールでお問い合わせください。

認定特定非営利活動法人 ふくしま NPO ネットワークセンター

・問い合わせ先メール center@f-npo.jp

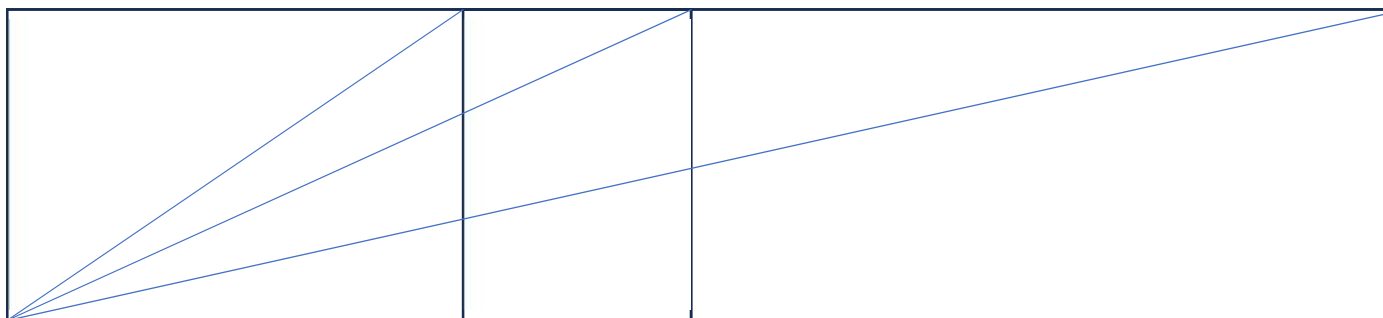
#### 【記載いただく事項】

- ・会社名/部署名
- ・ご担当者様名(カナ)
- ・住所/電話番号/FAX/会社紹介 URL(無い場合はパンフレット)
- ・その他(問い合わせ事項)

### 掲載スケジュール

上記問い合わせ⇒申込⇒デザイン作成⇒審査⇒契約⇒掲載

<広告サイズ(原寸)> 最大枠 タテ 42 mm×ヨコ 182 mm (分割可)



掲載金額はお問い合わせの際にご確認ください。なお、掲載にあたっては内部広告掲載基準を定めております。

## 事務局トピックス

### TOPICS 福島市市民活動サポートセンター

#### 個人情報の取り扱いを学ぶ職員研修会報告

7月12日(金)、職員を対象として個人情報の取り扱いを学ぶフォローアップ研修を二部構成で開催しました。

現在の個人情報保護法では環境動向や ICT の進展などを考慮して、“いわゆる3年ごとの見直し”を行うとされており、最新情報は常に頭に入れておくことが必要です。当施設は、「個人情報」を扱う事業体であることから、第一部では、個人情報保護に関する高い意識を維持し、また定期的な振り返りの機会として労務管理事務所

の方を講師に迎え実施しました。同時に、情報資産でもある個人情報は、情報漏えい防止施策を含めたセキュリティルールやしゅくみと密接に関連することから、第二部として情報セキュリティ管理士の資格を持つ IT 企業の方に講師を務めていただき、最新のセキュリティ動向について理解を深めました。

今後も、こうした定期的な振り返りの機会を適宜開催し、個人情報の適切な取り扱いを行っていきます。



## ふくしま市民活動フェスティバル 2024

- 開催日 11月3日(日・祝)
- 場所 福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ (A・O・Z)
- 時間 10:00~16:00

今年のテーマは、以下の通りです。

「みんなが主役!! ふくしま市民活動」  
 ~あなたの一歩からはじまる福島の未来~

市民活動団体同士が連携し、行政や企業・大学、地縁団体とも「協働」をするきっかけづくりをしながら、さらに浸透させ、共に「福島の元気!」につなげる、そんな場になる様なフェスティバルにしたいと考えています。

福島で活躍するNPOや市民団体が一堂に介する年に一度のイベントです。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

2022年フェスティバル



2023年フェスティバル



## 講座の案内

### ふくしま地域活動団体サポートセンター

URL <https://f-saposen.jp/>

- ◆団体の想いを伝えるプレゼンカ講座  
 日時:2024年10月3日(木)14:00~16:00  
 講師:浅井美絵氏  
 (フリーランスファンドレイザー)
- ◆インターネット活用講座  
 日時:2024年11月8日(金)13:30~15:30  
 講師:久野雅己氏  
 (株式会社ソーシャルスピーカー 代表取締役)
- ◆助成金活用講座 ~基礎編~  
 日時:2024年11月28日(木)14:00~16:00  
 講師:手塚明美氏  
 (認定NPO法人藤沢市民活動推進機構 理事長)
- ◆会計実務と決算事務  
 日時:2025年1月30日(木)14:00~16:00  
 講師:加藤彰子氏  
 (特定非営利活動法人岡山NPOセンター)

【問い合わせ】ふくしま地域活動団体サポートセンターまで

### 福島市市民活動サポートセンター

URL <https://www.f-ssc.jp/>

- NPO 税務・会計のポイント講座  
 ~日々の会計と仕分けの基本を学ぶ~  
 日時:2024年10月18日(金)13:30~15:30  
 講師:加藤 英夫氏  
 (税理士法人 さくら会計 代表税理士)
- 事業の組み立て講座  
 日時:2024年10月25日(金)14:00~16:00  
 講師:鈴木 綾氏  
 (NPO法人 こおりやま 子ども・若者ネットワーク理事長)
- 補助金・助成金講座~基礎編~  
 2024年11月22日(金)14:00~16:00  
 講師:齋藤 美佐氏  
 (NPO PLUS 代表)
- ファンドレイジング講座  
 ~上手な寄付集めをしよう!~  
 2024年12月9日(月)14:00~16:00  
 講師:鎌倉 幸子氏  
 (かまくらさちこ株式会社 代表取締役)

【問い合わせ】福島市市民活動サポートセンターまで

※変更等が入った場合は、ホームページでお知らせいたします。

「朋有り遠方より来たる」

同じ志を持ち、お互いを刺激し合う心通う友がいる。その友が遠くから訪ねてくれた。こんな楽しいことはない。こうした関係の連続が現代社会を支えている。新コーナーとなる第1回は、この方をお願いした。

## 人生の扉は他人が開く 安達 和久 氏 <あだち・かずひさ = 福島商工会議所専務理事>

人の運命は、自分だけの努力で切り開けるものではなく、多くの方々とのご縁、協力があって初めて、重い扉が開いて、新しいステージに進むことができるということ。私の人生の扉を開いてくれたのは、県立医大ふくしま国際医療科学センター副センター長の藤島初男さんである。

1994年、県の出先機関に勤務していた私は、海外研修で、1か月間アメリカ・カナダに渡航することになり、県庁に相談に行ったところ、県の国際経済担当をされていたのが藤島初男さんであった。藤島さんは、外務省に外向し、アメリカに3年間駐在経験がある方で、私にとっては、雲の上の存在、憧れの方だった。私の研修準備に際しても、訪問先や英語の文章の推敲など様々なアドバイスをくださった。私は、この研修の後、日本貿易振興機構(ジェトロ)や県の上海事務所勤務など2回にわたり海外勤務をする機会に恵まれ、多くのことを学ぶことができた。

その後、2012年、また藤島さんとのご縁に恵まれ、県立医大で、復興事業を推進する立場となった。霞が関の省庁への予算の交渉、時には復興大臣への直談判、さらには、様々なトラブルが発生したが、その都度、局長の藤島さんが解決に向けていつも寄り添ってくれ、大変心強かったことを昨日のように覚えている。

今では、ゴルフもご一緒させていただき、ドライバーの飛距離では負けないが、私にとっては、人生の扉を開いてくれた恩人である。

私も、誰かの人生の扉を開くお手伝いができるよう、人とのご縁を大切に生きていきたい。

### ふくしまNPOネットワークセンターの運営事業

- 福島市市民活動サポートセンター  
〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F  
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560  
URL <https://www.f-ssc.jp/>  
E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)
- ふくしま地域活動団体サポートセンター  
〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F  
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741  
URL <https://f-saposen.jp/>  
E-mail [saposen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp)
- ふるさとふくしま交流・相談支援事業 事務局  
〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち4F  
TEL 024-529-7150 FAX 024-529-7153  
URL <https://www.ff-shien.jp/>  
E-mail [furufuku@ff-shien.jp](mailto:furufuku@ff-shien.jp)
- まちなか交流施設 ふくふる  
〒960-8035 福島市本町 2-6  
TEL 024-524-3717 FAX 024-525-8156  
URL <https://fukufuru-machinaka.jp/>  
E-mail [f.machinaka@gmail.com](mailto:f.machinaka@gmail.com)

### 《編集後記》

- ◆総会と所轄庁への書類提出が完了し、事務局スタッフは、ほっと一息ついたのもつかの間、認定更新・助成金事業の準備へ向けて動き出しました。ここ数年で、事務所内の資料とパソコン内のデータ整理が進み、効率的に仕事ができるようになってきました。整理整頓の大切さを一緒に働くスタッフから学びました。我が家も生活しやすくなるよう整理整頓を進めなければと思うこのごろです。(C・S)
- ◆国立水産研究・教育機構から、今年8～12月スルメイカ長期漁況予報が出された。予報によると昨年を大きく下回り、漁場が形成されにくいらしい。それって獲れない…ということか。原因は？確かにイカ焼きは祭りの屋台からは姿を消した。イカの養殖はむずかしいという。そういえば秋の味覚の秋刀魚だって、去年は我が家の食卓には一度もお出ましにはならなかった。が、今年はちょっと期待できそうだ。よし、この機会に海洋熱波もちょっと調べてみるか。(M・S)

### 《編集・発行 2024.09.27》

認定特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター  
〒960-8041  
福島市大町 4-15 チェンバおおまち4階  
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931  
E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp)  
URL <https://f-npo.jp/>

